

8月「Brave Yoshiko Chan」 アントニア・シュルト

1.不安定な天気が続いている中、気づかないうちに週二、三回車で通勤していました。梅雨が明けたはずなのに、今日もまた雨が容赦なく降っています。激しく窓を叩くその音が何だかうるさくて無視できず、帰る時間まで止んでくれるかなと思いながら、急に良子ちゃんのことを思い出します。良子ちゃんがいてよかったなあと。自分の腕の力で生きていきたい私にとって大きな存在です。一人では、不自由で世界が限られています。良子ちゃんと一緒にいたり、仕事が終わるまでじっと待ったりしてくれます。外の雨の音や町の交通騒音から守ってくれて安心します。やっぱり、良子ちゃんは私にとって特別な存在です。

8月「Brave Yoshiko Chan」 アントニア・シュルト

2. あーそうですか。言うのを忘れてしまいました。良子ちゃんは私の車です。一般の白い軽自動車です。どんな一般車かというと、普通の駐車場でとめたら、良子ちゃんと同じモデルの車が必ず何台かあります。ナンバープレートはどうしても覚えられないので、これまでは近いところから中を覗いていましたが、あまりみたら少し怪しまれるかと思って、100均で初心者マークを買ってつけておきました。それで分かりやすくなりました。トランクの方にはユニークなぶつけた跡がありますので、後ろからは簡単にわかります。良子ちゃんみたいな車に乗っている、全く知らない人に、間違えて手を振ってしまったほど、小林市内でよくみかける車ですが、その理由は買った後で分かりました。良子ちゃんの凡庸なところを現すような話はまだ山ほどありますが、読者が飽きないうちにタイトルに関するポイントを書きたいと思います。なぜみんなこういう、一目で色気の少ない車にするか、その謎が買った後で割とすぐ解けました。みんなはこの車の良さが分かっているためです。

8月「Brave Yoshiko Chan」 アントニア・シュルト

3. 良子ちゃんは体力があり、（20万以上キロ走ってきた）、切れ味もあり、素朴な感じ満々です。言うまでもなく、何でも乗せます。荷物、自転車二台、犬三匹、人間三人を一緒に乗せても、良子ちゃんなら文句一言を言わずに、えびの高原まではあはあ登ります。こういった理由で、この名前を付けました。良子ちゃんはどうみても、頼り甲斐のある、芯まで良い車だからです。降っても照っても、良子ちゃんは絶対です。

